



自閉症教育総論			単位数	履修方法	配当年次
			2	R or SR	3年以上
科目コード	EG4735	担当教員	青木 真澄		

■科目の内容

わが国で、自閉性障害のある児童生徒に学校教育が行われてから約30年の年月が経過している。彼らの障害の程度に応じて、通常の学級や通級指導教室、特別支援学級、あるいは特別支援学校で多様な教育が行われてきた。しかし、未だなお、彼らに効果的であると実証された指導方法は確立されていない。そのことは自閉性障害のある児童生徒の教育がいかに困難であるかを物語っている。

本科目では、自閉性障害のある児童生徒を対象とする、社会的自立を目指し、発達をうながす指導内容として、どのような内容を設定したらよいかを考える。

■到達目標

- 1) 自閉症児の行動特徴を説明できる。
- 2) 自閉症児を対象とする教育の基本的視点を説明できる。
- 3) 自閉症児の社会的相互交渉の機能を高める指導について説明できる。
- 4) 自閉症児のコミュニケーション機能を高める支援について説明できる。
- 5) 自閉症児の認知行動を高める支援について説明できる。
- 6) 自閉症児の不適切な行動への基本的視点を説明できる。

■教科書

阿部芳久著 『知的障害を伴う自閉児の特別支援教育』 日本文化科学社、2010年
(最近の教科書変更時期) 2011年4月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	過去に行われた自閉症児の教育① ・遊戯療法によるアプローチ ・行動療法によるアプローチ	・自閉症児に対する遊戯療法の実際について学ぶ。 ・遊戯療法の問題点について学ぶ。 ・受容的交流療法について学ぶ。 ・行動療法の代表的技能について学ぶ。 ・自閉症児に対する行動療法の実際について学ぶ。 ・行動療法の問題点について学ぶ。	・自閉症児の原因論の変遷とは ・遊戯療法の効果と問題点とは ・行動療法における望ましい行動を形成する技法と不適切な行動を減少させる技法とは ・行動療法の効果と問題点とは

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
2	過去に行われた自閉症児の教育② ・感覚統合法によるアプローチ ・認知発達を重視したアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚統合法における指導段階について学ぶ。 ・自閉症児に対する感覚統合法の実際を学ぶ。 ・感覚統合法の問題点について学ぶ。 ・言語・認知障害説について学ぶ。 ・自閉症児における認知障害について学ぶ。 ・認知発達を重視したプログラムについて学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自閉症児の感覚刺激に対する特異な反応とは ・感覚統合法の効果と問題点とは ・自閉症児の特異なパターンの認知障害とは ・太田らの認知発達プログラムにおいて重視している発達理論とは
3	過去に行われた自閉症児の教育③ ・TEACCHプログラムの中核的な視点	<ul style="list-style-type: none"> ・自閉症児の情報処理過程を理解した対応について学ぶ。 ・構造化された環境での指導について学ぶ。 ・生涯を通しての支援について学ぶ。 ・個別化された教育プログラムについて学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境を調整することの効果とは ・一貫性のある支援システムと支援方法を継続する理由とは
4	過去に行われた自閉症児の教育④ ・TEACCHプログラムの教育プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・前提となる適切な発達評価について学ぶ。 ・個別の教育目標の設定について学ぶ。 ・発達評価と個別の教育目標設定の事例について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達評価のための手続きとは ・短期目標設定において「芽生え反応」に着目する理由とは ・親を共同教育のパートナーに位置づけることの意義とは
5	知的障害を伴う自閉症児のこれからの特別支援教育① ・知的障害を伴う自閉症児の特別支援教育、その基本的視点	<ul style="list-style-type: none"> ・自閉症児の諸機能の全般的な発達と「問題行動」の軽減について学ぶ。 ・自閉症児の発達を促進する中核的な諸機能について学ぶ。 ・理解を促し、学習を活発にする指導方法の採用について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いわゆる「問題行動」発生の理由と背景とは ・変容をもたらす3つの機能とは ・全般的な発達促進と中核的な機能の発達促進とは
6	知的障害を伴う自閉症児のこれからの特別支援教育② ・知的障害を伴う自閉症児の教育課程	<ul style="list-style-type: none"> ・自閉症児の特別支援教育の教育目標について理解する。 ・学習課題の設定について学ぶ。 ・知的障害を伴う自閉症児を対象とした教育課程について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育が目標とする人間像とは ・知的障害を伴う自閉症児の学校教育の中心的課題とは ・自閉症児の障害特性に配慮した学習活動とは
7	変容をもたらす中核的な機能の発達課題① ・対人的相互反応の機能の発達課題	<ul style="list-style-type: none"> ・対人的相互反応の機能の発達課題を選択する、その視点について理解する。 ・対人的相互反応の機能の発達課題、その実践例について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「心の理論」とは ・情動の共有、感情の共有を成立させるための工夫、働きかけに必要な視点とは

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
8	変容をもたらす中核的な機能の発達課題② ・社会的スキルを形成する学習課題の教育課程における位置づけ	・社会的スキルを形成する学習課題の教育課程における位置づけについて理解する。	・自立を見据えた社会的スキルとは ・一日の生活の中にある社会的スキル獲得の場面とは ・社会的スキルの形成にねらいをおいた一斉指導、個別指導場面に対応する教育課程の編成に必要な視点とは
9	変容をもたらす中核的な機能の発達課題③ ・コミュニケーションの機能を高める発達課題	・コミュニケーションの機能を高める発達課題の選択の視点について理解する。 ・コミュニケーションの機能を高める発達課題その実践例について学ぶ。	・話し言葉の無い自閉症児に行うAAC手段によるコミュニケーション指導の有効性とは ・機会利用型の身ぶりサインの指導の有効性とは ・自閉児に対するVOCA活用の効果とは
10	変容をもたらす中核的な機能の発達課題④ ・コミュニケーションの機能を高める課題を教育課程にどのように位置づけたらよいか	・コミュニケーションの機能を高める課題を教育課程にどのように位置づけるかについて学ぶ。	・国語科、自立活動におけるコミュニケーションの指導内容とは ・一日の学校生活の文脈の中でコミュニケーション指導を行う場合の留意点とは
11	変容をもたらす中核的な機能の発達課題⑤ ・認知機能を高める発達課題	・認知機能を高める発達課題をどのような視点で選択するかについて理解する。 ・認知機能を高める発達課題の実践例について学ぶ。	・刺激への注意力を高める指導で配慮することとは ・時間的順序づけの学習課題設定の意義とは
12	変容をもたらす中核的な機能の発達課題⑥ ・認知機能を高める課題を教育課程にどのように位置づけたらよいか	・認知機能を高める課題を教育課程にどのように位置づけるかについて理解する。	・自立活動における「環境の把握」の指導内容とは ・教科、領域教科を併せた指導での認知機能を高める指導内容とは
13	学習活動を効果的に進めるための方策① ・効果的な指導方法を選択する、生活の文脈を活かす	・効果的な指導方法の選択について学ぶ。 ・生活の文脈を活かした指導について学ぶ。	・自閉症児の課題達成を目指した有効なメソッドを選択する視点とは ・生活の文脈を活かす指導が効果的な理由とは
14	学習活動を効果的に進めるための方策② ・段階的な指導プログラムを用意する、自閉症児の認知特性を考慮した場の設定や教材を用意するー構造化ー	・段階的な指導プログラムについて学ぶ。 ・認知特性を考慮した場の設定や教材について学ぶ。	・スモール・ステップ方式による形成化とは ・指導者の支援、学習の手がかりを減少させていくことのねらいとは ・自閉症児の認知特性に配慮した「わかる」「できる」「かわる」授業づくりとは

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
15	不適切な行動への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自閉症児における不適切な行動の原因について理解する。 ・ 不適切な行動への対応について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知機能の未分化さによる不適切な行動以外に考えられる不適切な行動の原因とは ・ ソーシャルストーリーを活用して、社会的スキルを高めることの効果とは

■レポート課題

1 単位め	<p>テキストに掲載されている事例を参考にして、<u>自閉症児に対して行われる、対人的相互反応のさまざまな課題（例 「一緒にいて楽しいという情動共有の遊び・活動」、「やりとりによる対人的相互反応を高める遊び・活動」等）の指導例を作成してみよう。「①遊び・活動の指導例」、「②その遊び・活動によって学習される意欲・態度」の2つ項目を立てて整理してください。作成する課題は一つだけでなく、レポート用紙の枚数制限内で複数でも結構です。</u></p>
2 単位め	<p><u>学校生活や家庭生活の場面において、毎日繰り返される活動を利用して、自閉症児に対してコミュニケーションの機能を高める指導の指導例を作成してください。「①指導例」、「②その指導によって学習される意欲・態度」の2つ項目を立てて整理してください。作成する課題は一つだけでなく、レポート用紙の枚数制限内で複数でも結構です。</u></p>

(注) レポート用紙の課題記載欄は下線部のみでよい。

■アドバイス

1 単位め アドバイス

テキストの55ページから95ページを熟読してください。学校生活において、教師と児童、および児童間の関わりのある活動から「対人的相互反応の機能を高める課題」に発展する可能性のある遊びや活動がないか探ってみましょう。その遊びや活動をベースにして「対人的相互反応の機能を高める課題」を作成してみましょう。

「②その遊び・活動によって学習される意欲・態度」についてはテキストに掲載されている「期待される指導効果」に示されている内容を参考にしてください。

2 単位め アドバイス

テキストの96ページから159ページを熟読してください。そこに示されている指導例を参考にしてください。まず、指導に利用できる生活場面を探ってみましょう。その後、活動の流れにおいて、どのような言葉を習得させたいかを考えてみます。「指導例」には指導場面、習得させたい言葉、働きかけを明示してください。

「②その指導によって学習される意欲・態度」についてはテキストに掲載されている「期待される指導効果」に示されている内容を参考にしてください。

以上の2つの課題について、なかなか、指導場面が思いつかない方は、次ページの参考図書およびその他の著書に掲載されている「対人的相互反応の機能を高める事例」「コミュニケーション指導の事例」参考にしてそれを整理してレポートにしてもかまいません。

■科目修了試験 評価基準

- ・自閉症児を対象とする教育の意義と学習内容，方法等について説明できているか。
- ・知的障害を伴う自閉症児の教育課程について説明することができるか。
- ・自閉症児の社会的相互交渉の機能を高める指導について説明できているか。

■参考図書

月刊雑誌『実践障害児教育』学習研究社

月刊雑誌『特別支援教育研究』東洋館出版社